

## 第141回経営協議会議事録

日 時 令和5年9月26日(火) 15時～17時00分

場 所 第一会議室

出席者 (学外委員)

門脇委員、川上委員、小間委員、長友委員、端山委員、森口委員、安田委員

(学内委員)

田野学長、小花理事、阿部理事、大家理事、三浦理事、仲谷研究科長

(オブザーバー)

小池副学長、村松副学長、山口副学長、坂本副学長、吉海監事、名取監事

### 議 題

#### 議事録報告承認

1. 第140回経営協議会議事録報告承認 (資料①)

#### 審議事項

1. 国立大学法人ガバナンス・コードへの対応について (資料②-1～3)

#### 報告事項

1. 給与勧告等について (資料③)
2. 令和5年度資金運用実績(見込)について (資料④)
3. 令和6年度概算要求について (資料⑤)
4. 今後の大学運営について (資料⑥)

### 議 事

#### 議事録報告承認 第140回経営協議会議事録

田野学長から、第140回経営協議会議事録(案)について説明があり、これを承認した。

#### 審議事項 1. 国立大学法人ガバナンス・コードへの対応について

三浦理事、から、令和5年度における国立大学法人ガバナンス・コードへの対応について「若手の役員就任を推進する方策として新たな規程の制定、共創進化型イノベーション・コモンズマスタープランの策定、「国立大学法人ガバナンス・コード」に関する協力者会議からの意見を踏まえた対応」等、令和4年度からの状況変化とガバナンス強化に対応している旨の説明があった。また、例年同様に、本会議の意見と改めて行う意見照会の際に示される意見を反映させて、ガバナンス・コードへの適合状況に関する報告書を、10月末に大学ウェブサイトにおいて公表する

予定である旨の説明があり、これを了承した。

報告事項 1. 給与勧告等について

三浦理事から、令和5年勤務時間に関する勧告の骨子及び令和5年給与勧告の骨子について報告があった。

報告事項 2. 令和5年度資金運用実績（見込）について

三浦理事から、令和5年度資金運用実績（見込）について報告があった。

主な意見は次のとおり

(学外委員) 社債購入を少し増やしたことで運用収益額が増加している。一方で現状は大口定期預金がほとんどを占めているが、今後どのような割合で運用していくのか。

(学内委員) リスクの高いところに投資ができるようにするには、いくつか条件があり、文部科学大臣の認可が必要となる。本学は2年前に初めて認可を取り、社債の購入ができようになった。財務状況を見直し、利率の高い社債を徐々に増やしていこうとしている。

報告事項 3. 令和6年度概算要求について

三浦理事から、令和6年度概算要求について報告があった。

(学外委員) 電気通信大学、東京農工大学、東京外国語大学の3大学で共同の事業を行うようだが、理工系ではない東京外国語大学はどのような関わり方になるのか。

(学外委員) 西東京三大学共同サステナビリティ国際社会実装研究機構を設置した。本学が情報・通信（ICT）、東京農工大学が食料、東京外国語大学は国際地域研究というそれぞれの強みに基づき役割分担をして協力している。例えばアフリカで送電線がないところに太陽光パネルで発電し、ICTで農業を活性化するといった取組も重要ではないかと考えている。

報告事項 4. 今後の大学運営について

田野学長から、学長業績評価と学長任期について並びに、概算要求事項、理系強化の審査結果及びキャンパスプランの今後について報告があった。

主な意見は次のとおり

(学外委員) 理系強化プログラム（D×2プログラム）で学域生の定員増が認められたことは非常に良かったと思う。

今後、AIをどのように積極的に活用していくのか、ということが明確になるというのではないかと思う。

(学外委員) 次期学長や執行部について、若手の育成を検討されているようだが、若手とは何歳ぐらいを想定しているのか。

(学外委員) 若手の年齢は、50代前半と考えている。

(学外委員) 次期執行部について、若手という年齢の観点も重要だが、女性ということも考えたほうがよい。また、現在の理事の人数が決まっている中で難しいかもしれないが、経営企画担当、危機管理担当の理事を置いた方がよい。あらゆることが学長に集中してしまう仕組みにならないようにするべきである。

来年度末に完成予定の地域中核の建物の設備はどのように考えているのか。

PPP、PFI 事業について、この先の応募状況をみてからとなるが、社会人教育プログラムのようなものをセットで考えてはどうか。企業が研究を含めた DX のための活動を行うことで、研究面や経営面でプラスに働き、さらに目的意識を持った社会人の方と学生が交流する機会ができ、教育面でもプラスの効果があるのではないか。

(学外委員) 次期執行部への女性登用は考えている。理事の担当分野については、本学の規模も踏まえて検討したいと考えている。

地域中核の建物の設備については、太陽光発電などのエネルギー関係の設備を整えていきたい。

PPP、PFI 事業について、研究と教育の両方という提案は是非検討していきたい。

(学外委員) 若手役員の育成について、優秀な若手を幹部候補として育てても優秀がゆえに、流出してしまうという場合がある。大学も人の流動性が高いと思われるので、幹部候補として育てた優秀な若手をどのように引き留めるのが課題だと思う。

(学外委員) 次期執行部については、若手のみではなく、若手とシニアが連携した体制がよいと考えており、若手で役員となった方の負担軽減のためのサポート体制も整備したいと思っている。

(学外委員) 執行部に若手が入ることは大賛成であるが、大学の執行部は他の組織と違い、研究や教育でしっかりと実績のある方がリーダーでないと、周りについてはこないという特徴がある。定年が 65 歳だと考えると、55 歳ぐらいで学長になるのが適当ではないか。

また、40 歳ぐらいの方たちのグループを作り、新しい視点で大学の色々なことを検討させ、意見を出してもらおう。そういった訓練を重ねて、グループの中からリーダーを育成していくという仕組みを作ってはどうか。

(学外委員) コロナ禍で教育に大きな変革があった。コロナが収まりつつある中で、ただ元に戻すのではなく、コロナ禍の経験を生かした教育にしっかりと取り組んでほしい。

(学外委員) 共創進化棟建設については、予算を獲得することがまず大事であるが、調布都市計画高度地区の高さ制限の件は、しっかりと検討していただきたい。非常に難しいことなので、予算獲得前から準備を進めていただきたい。

(学外委員) 既に担当レベルではいろいろ協議させていただいている。調布市とは向かい合う形ではなく、ともに同じ方向を見るように進んでいけるようにしたいと考えている。

(学外委員) 学長の今後 2 年半の取組として、教育の抜本的見直しと組織人事の抜本的見直しをあげている。特に組織人事の抜本的見直しとして、教職協働ということは非常に重要だと思う。大変重く大きな課題を 2 年半という時限の中で進められることになるが、今後、どのように議論し、実践していくのかなど、透明性をもって進めていただきたい。

(学外委員) 田野学長は大きなビジョンで新しいことを進められているので、教員・研究者と事務職員が一体となって学長を支えていただきたい。

また、電気通信大学発のビジネスというのは色々あると思うが、ベンチャーの発展というのはなかなか難しいのでアドバイスなどの支援で大学としてしっかり育成していただきたい。

[配付資料]

- ①. 第140回経営協議会議事録（案）
- ②-1. 令和5年度における「国立大学法人ガバナンス・コード」への適合状況について
- ②-2. 「国立大学法人ガバナンス・コード」への本学の適合状況について＜対応表＞
- ②-3. 【公表様式】国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告書（案）
- ③. 令和5年人事院勧告の報告・勧告の骨子
- ④. 令和5年度資金運用実績一覧（見込）
- ⑤. 令和6年度概算要求について
- ⑥. 今後の大学運営について（第17回学長トーク＜抜粋＞）